

議事録

会議名	第3回老岐市総合計画審議会
日時	令和6年5月27日 13時30分～15時00分
場所	老岐の島ホール 大会議室
参加者	別紙のとおり
内容	<p>1. 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> 一般の傍聴並びに報道機関の取材及び撮影について了承を得た。 <p>2. 委員の交代について</p> <ul style="list-style-type: none"> 組織団体の長の交代に伴い下記2名の委員が変更。 老岐市商工会会長 吉田 寛 様 → 久原 圭三 様 老岐市校長会会長 長岡 正典 様 → 川上 康 様 委員16名中、代理出席を含め11名の出席。 【欠席】大久保(照)委員、川上委員、市山委員、末永委員、大久保(典)委員 【代理】鬼塚委員 → 草野 仁 様 <p>3. 会長の選任について</p> <ul style="list-style-type: none"> 審議会長として川崎 裕司委員を選任 <p>4. 挨拶(審議会会長:川崎 裕司 委員)</p> <p>改めまして。皆さんこんにちは。会長を務めさせていただきます川崎と申します。どうぞよろしくお願いいたします。本審議会は、皆さんご承知のように、昨年度2回会議を開催しておりまして、アンケートの結果、あるいは本市の人口の増大、地域経済の分析結果等に対しまして、皆さんより活発なご意見をいただきました。また、その後も、審議会コアメンバーや若手職員によります検討会や意見交換会等行なわれまして、計画策定に向けておおむね順調に進んでいるものと思っております。</p> <p>本日の会議では、これまでの経過を踏まえまして、計画の骨子となる老岐市の目指す姿や、特に力を入れる重点分野、施策体系などについてご意見をいただきたいと思っております。皆様には、老岐市発展のため、忌憚のないご意見を賜りますようお願いを申し上げます。今後ともよろしくお願いいたします。</p> <p>5. 会長職務代理の指名について</p> <ul style="list-style-type: none"> 審議会長職務代理に大久保典子委員を選任 <p>6. 協議事項 (1)～(3)</p> <p>以下の論点①～③について事務局より一括説明。</p> <p>論点① 老岐市の目指す姿・まちづくりの方向性について</p> <p>論点② 老岐市が特に力を入れていくべき分野について</p> <p>論点③ 次期総合計画の施策体系について</p>

○質疑

委員A

前回から感じていたのですが、「誇り」という言葉は少々強すぎるのではないかと思います。若干偉そうに聞こえるかもしれません。「誇らしい」や、場合によっては英語表現の方が適しているのではないかと考えています。また、コアメンバーの会議においても「セルフレスペクト」という表現が使われており、「誇り」という言葉が強すぎると感じる場合があります。

委員B

このスローガンというのは、そもそも誰向けかというのがありますか。

事務局

事務局において、スローガンで意識しているのは、あくまでも島内の方です。いわゆるインターブランディングという言葉になるのかなと思いますが、まずは島民の皆様が、壱岐の価値ってこうで、こういう将来を作っていきたいという思いを寄せると言いますか、同じ方向が見えてくるような、そんなイメージを考えておりました。

委員B

先ほどのご指摘にもありました通り、「誇り」という言葉にどれだけ共感を持てるかについては疑問が残ります。私自身も島で生活する者として、この言葉が少々強すぎると感じる部分がありますし、「誇り」という概念が少し曖昧で分かりにくいところもあるかと思います。したがって、もう少し島民に共感を得られるような表現が望ましいのではないかと考えています。

事務局

貴重なご意見をありがとうございます。前回のコアメンバー会議でも同様の議論があり、G委員から5年前にこの計画を策定した際の「誇り」という言葉の由来についてご説明がありました。その内容は、壱岐には非常に素晴らしい資源があり、外部の方々から見てもその価値が認められているということでした。しかし、その素晴らしさが島民に十分に伝わっておらず、自分たちの強みや自慢として十分に認識されていないのではないかと、という問題意識から「誇り」という言葉が生まれたというものです。確かに「誇り」という言葉は強い表現であると感じられるかもしれませんが、その根底には島の価値を再認識し、島民の皆様にそれを共有していただきたいという思いが込められています。

委員C

先ほどのスローガンに関連する内容だと思いますが、私たちは島内の状況を中心に考えがちであり、アンケートも島内の方々の意見を基にしています。観光や移住の推進を考える際に、不便さや不自由さが島民の不満として挙がることは理解できます。しかし、人口減少を食い止める目的があるならば、外部からの移住者や観光客を引き入れることが不可欠です。特に福岡などの大きなマーケットに向け打ち出せるようなものを強化することが重要だと考えま

す。これを実現するためには、体系の中に大きな目標にはならなくても広告宣伝に関する戦略を入れる必要があります。

現在取り組むべき課題は、満足度と重要度のバランスを見ながら進めるべきだけれど、ふるさと納税による財政安定化を目指すためには、やはり対外的な認知度の向上が不可欠です。島民の士気を高めるスローガンだけでなく、外部の人々にも魅力的に映る目標があってもいいのではないかと思います。

実際、観光の振興に関しては、イルカパークのゴールデンウィーク期間中の来場者数が前年の7割に留まっていて、壱岐のリピート率の低さが課題として残されたままだったと感じています。観光業が活性化すれば、観光関連事業者の収益向上や雇用の創出につながりますし、人が来ることで観光に直接関わらない事業者も動いていきます。生活インフラや高齢者福祉、子育て支援はコアにしながらも、対外的なコミュニケーション戦略も重要で併せて考える必要があるのではないかと思います。

事務局

とてもいいご意見いただきました。ありがとうございます。

今回のメッセージが誰に向けたものなのかという点について、先ほどご質問がありましたが、現在は島内向けのブランディングに重点を置いております。しかし、今のご意見を踏まえると、外部に向けた発信も同様に重要であると改めて認識いたしました。これについては、今後しっかりと考慮していきたいと思えます。

また、島外に向けた取り組みについてですが、今回の計画の25ページに記載されている内容に関して説明いたします。観光は目標1の産業部門に含まれておりますが、目標5では壱岐の特徴をより明確に表現する項目を設けています。具体的には、新たなにぎわいを生み出す拠点作り、例えば郷ノ浦などの賑わいの拠点を作る視点が含まれています。これはこれまでにない新たな視点です。

さらに、「GX(グリーントランスフォーメーション)」という国が力を入れている再生可能エネルギーや自然に優しい街づくり、島づくりの価値を重視する点も加えました。これは壱岐に非常に適していると考えています。歴史や文化もこれまで目標4に含まれていた要素を、壱岐の価値そのものとして目標5に位置付けました。

それらの思いを、UIターン希望者の皆様に発信し、壱岐に住んでみたいと感じてもらえるように、この計画に反映させました。しかし、いただいたご意見を踏まえると、まだ改善の余地があると考えていますので、今後も検討を重ねてまいります。

委員B

2点あります。まず1点目は、特に力を入れていくべき分野に関しては、ここに載っているものでほとんど網羅されていると考えます。その中で、その他はどのように進めるのかが非常に重要であり、それを今回の総合計画にどの程度盛り込むのかがポイントになるかと思います。短期的には観光分野に注力すべきと考えております。観光は外部からの人々をどれだけ呼び込めるかが、持続可能な壱岐の発展にとって重要であるため短期的には集中して取り組むべきかと思えます。並行して中期的に子育てや教育の環境整備が重要だと考えています。これ

は島全体のブランドデザイン、人々の生き方のデザインに深く関わってきますが、結婚や教育の問題も含め、前提として高齢者や働く大人の環境整備も必要であり、全体的なブランドデザインを取り入れるべきと考えます。

次に2点目ですが、壱岐の魅力発信とスローガンに関連して、この2年間で多くの方々から「もったいない」という声を耳にしました。これは、壱岐に多くのコンテンツがありながら、それが資源として活かされていない、子供たちのいろんな力を持っているのに十分に伸ばされていない、またフードロスの問題などに起因しています。この「もったいない」というキーワードは、持続可能な社会の構築において非常に重要です。

税金の無駄遣いも含めて、もったいないという視点をさまざまな分野に活かし、今回の施策の体系にもこの視点を取り入れるべきではないかと感じています。

事務局

ありがとうございます。2点に関してご意見を頂戴しました。まず一点目について、壱岐の価値を外向けにどう発信するかというご質問が先ほどもありましたが、目標5にその点を含めました。私も申し上げた通り、子育てや教育、高齢者福祉といった住民の住み心地を良くすることが、外部への魅力発信に繋がり、移住やUIターンの促進にも寄与するという点を改めて認識しました。したがって、内向けの住民の住みやすさと、外向けの魅力発信という二つの視点をもう少し強調し、整理する必要があると感じました。

次に、「もったいない」というキーワードについてですが、これは非常に分かりやすく、良い言葉だと思いました。「もったいない」という言葉は、素晴らしい資源が十分に活かされていない状況を端的に表現しています。この概念は全体に関わるものであり、施策の体系に具体的にどう取り入れるかというよりも、基本的な考え方やスローガンに反映させると良いかもしれません。以上、感想を交えた意見となりましたが、どうぞよろしく願いいたします。

委員D

旅行会社の本社の方や九州担当の方がいらっしゃり、先ほどB委員がおっしゃった「もったいない」という点について同様の意見を持っておられました。一次産業や商工業だけでなく、高齢者の方々の知恵を借りるなど、壱岐にはまだ多くの活用できる資源があります。こうした多様な知恵を横断的に結びつける体制を市で構築すれば、「もったいない」が解消され、生きていくのではないかと思います。

現在、壱岐には日本有数の大手旅行会社が訪れており、彼らが中心となって壱岐をPRしています。この波及効果が他の大手旅行会社にも広がっているため、今後も中身を整理し、魅力あるものを作り上げていけば、C委員が指摘された前年比7割という数字も改善できると考えます。

確かに4月の数字は前年比7割でしたが、昨年までは補助金があつての7割でした。現在、補助金がなくなった状況で7割まで回復したことを冷静に評価しつつ、残りの3割は協力体制をつくり込んでいければ活気ある市になると思っております。

会長

壱岐が本当に魅力的だから、もう少しこうすれば増えるよという話でしたので、取り入れていただけたらと思っております。

委員A

計画全体についてですが、4 ページの部分で触れられた人口の推移に関して人口が 1 万 8000 人から 1 万 5000 人、1 万人へと減少した場合、島のインフラや商業施設の状況がどのように変化するかについての具体的な示唆が必要です。これがなければ、島民はなかなか現実味を感じないと考えます。計画には否定的な要素を含めるのもどうかとは思いますが、目標人口 1 万 8000 人を掲げる以上、その目標を達成できた場合とできなかった場合、それぞれどうなるのかを明示することが望ましいです。

また、計画策定にあたって、第 3 次総合計画の検証をぜひ入れていただきたい。第 3 次計画では第 2 次の検証についてあまり言及されていなかったかもしれませんが、計画の進捗状況の評価することが必要だと考えています。

さらに、アンケート調査に基づいて計画が策定されている部分について、現状と将来像の区別が不明確である点に言及します。スローガンが「壱岐に住まう価値」として提示されていますが、これが将来の姿を描いたものなのか、現在の状況を反映したものなのかがわかりにくいです。将来像と現状を明確に区別して表記することが必要です。

事務局

人口ビジョンの方針は課内でも議論をしているところです。A 委員からのコメントを受けて人口が一定数に達した際の利点を明確に示す必要性を再確認していますので、表現を検討します。

また、第 3 次総合計画の検証についても、各課が KPI の達成状況を集約しています。ただし、今年度が第 3 次計画の最終年度であるため、完全な検証は年度を跨ってしまう状況でございます。しかし、まち・ひと・仕事の主要な KPI の状況については夏頃までには把握できる見込みです。そこを含めて、年度途中ではありますが大幅に KPI が変わることもないと思いますので、総合計画策定に合わせて達成状況の取りまとめをしたいと考えております。

最後に、アンケート結果に基づいた報告書についてですが、これは現状と将来を含む内容となっています。今後は、資料の修正を通じて、現状と将来の区別が明確になるよう努めたいと考えております。

委員B

基本的に、このイメージは非常に明確になってきたと考えております。ただ、さらに洗練される必要部分として、具体的には 3 点ほどあります。

1 つ目に、「つながり」という部分について、世界的に言われているのは人と人、人と自然、人とテクノロジーの 3 つです。現在の計画では、特に人に限定されているため、テクノロジーや自然とのつながりをいれてもいいのではないかと思います。

2 つ目に、新体系イメージのところ、各種機関が共通のビジョンに向かって島全体で取り

組んでいけるための骨子とするべきです。これにより、各機関や部署が作業をより効果的に行えるようになる必要があります。実際の現場では、上位の立場者に伺いをとって、時間もかかるし効率も悪いという問題が依然として存在しています。次期総合計画では、この問題をできるだけなくす必要があります。体系のイメージを見て、自分たちの分野ではこうすべきというイメージが湧くような骨子になっている必要があります。総合計画を見た時に、自分はこういう感じで生きていくといい、これは壱岐のためにもなっていると分かる表現の仕方とか見せ方っていうのがあるといいと思います。

最後に、これから先の5年間は急速な変化が予想されるため、計画自体も柔軟に変化に対応できるようにする必要があります。具体的には、社会の変化に迅速に対応できるような表現や文言を入れることが必要かと考えております。

委員E

今回から参加させていただいていますが、住みやすいのに人口が減少するということで、基本目標を考えられていると思います。希望の仕事なり安心して働くことができる仕事があれば人口減少すると思います。私はこれがメインではないかと考えております。商工会の方でも協力ができるところはしていこうという考えでやっていきたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

委員C

B委員が2回ほど前に論点2の目標で、緊急度の高いものを考えないとダメだとおっしゃっていたのをすごく覚えていて、緊急度の要素は全体的に入っていませんが、市としては緊急度の高い課題はどの辺だと考えていますか。

事務局

16ページの方に論点2ということで、今話がありました部分を載せさせていただいております。その中で緊急度となれば市としては様々な政策を打つ中で、第一産業の振興というようなところが緊急的な課題であるのではなからうかと感じております。あと、アンケートの中で多かったのが、公共交通機関の満足度が低いという回答結果が出ておりまして、5年前の総合計画のアンケートと比較したときに、かなり下がっています。そこについては、5年でそれだけ下がった原因もちょっと分析する必要があり、早急的な対策が何らか必要と感じておるところです。

委員C

ありがとうございます。今公共交通機関の話がある中で、17ページの左下のところに島外交通の評価が最重要課題と記載がありますが、私個人としては、東京などを行き来しながら島外交通は別に問題ないと感じています。私の家族には中学生1人と高校生2人がいますが、彼らの島内の2次交通の方が深刻だと思います。例えば、明日遠征あるから朝に送迎が必要だったり、夕方4時に到着するから迎えに来てほしいと急に言われたりしますが、対応が難しいです。私のような移住者だと、周りに頼ることも難しく、息子が部活入ってくれてようや

く頼めるようになりましたが、急に言われて頼めないです。サラリーマンだったら絶対無理です。だから、公共交通機関が、高校の部活あるのに6時45分が最終で対応できないというのは深刻だと思います。私はこの島内交通はかなり緊急度が高いと感じていたため、ぜひお願いしたいなと思います。以上です。

委員F

壱岐から島外に出た同級生や先輩後輩たちとの繋がりの中で、帰ってきたいという声をよく耳にします。壱岐で何かしたいという希望はあるものの、実際問題、5年経っても壱岐には戻っていないというような状況です。島外で頑張っている人々にとって、壱岐に戻れない理由は、雇用の不透明さや自分が希望する仕事が存在しないことが大きな障壁となっています。こうした状況で家庭を築き、家を購入し、既に定住しているため、壱岐に戻る機会が少なくなっています。壱岐の住みやすさは私も理解しておりますが、それ以外に雇用機会を増やし、島外に出た若者たちが戻りたいと思えるような環境づくりが必要だと感じます。これには、ただの移住促進ではなく、壱岐を離れた若者たちが戻りやすい島を目指すことが重要です。このような機会に参加できることを大変光栄に思っております。ぜひ、壱岐の魅力を発信し続けていただければと思います。

事務局

総合計画の中でどのように島の振興、発展をしていくかというようなことが計画に落とし込めるように引き続きいろんなご意見を聞きながら検討させていただきたいと思います。

委員B

先ほどC委員から指摘があったように、緊急性に関連して新体系イメージの25ページおよび24ページを参照しながら、現場の方々がどのように緊急性を判断できるのかについて考えておりました。例えば教育に関してですが、これは個人的な見解ですが、私自身、緊急性が高いと感じる事例として、子供たちが利用するB&Gプールの錆びだらけの屋根、もはや屋根もないような状態などが挙げられます。これらは緊急性が高いのではないかと考えます。また、学校のトイレも非常に古く、特に建て替えない学校のトイレは冷たくて、現代の子供たちにとって使用が厳しい状態です。さらに、学校現場では、自分のクラスで必要な鉛筆削りの予算が下りず、先生が自費で購入する状況も緊急性が高いと考えます。このような緊急性の高い事案に対して、この目標を見て、すぐに取り組むべきだと判断できるかどうか、現場が取捨選択を行えるかどうか重要です。この点に関しては、表現の仕方や表示方法も含めて、現場が自立的に取り組みや事業を進められるような骨子となることが望ましいと考えます。私自身も工夫を考えていきますが、このような使われ方ができるようになると良いのではないかと思います。以上です。

事務局

はい、ありがとうございます。本日は様々なご意見をいただき、誠にありがとうございました。非常に参考になりました。特に3点印象に残っております。

まず1点目、市民の幸福とその魅力を外部にどう伝えるかという視点についてです。島内と島外の視点をしっかりと整理し、まとめていくことが非常に重要だと改めて認識しました。

2点目は、時間軸に関する話です。現状と将来をどのように効果的に示していくかという点です。文章だけでは伝わりにくい部分もあるため、ビフォーアフターのように視覚的に変化を見せることが必要だと感じました。

3点目は優先度に関する観点です。総合計画は全ての人に対してどうアプローチするかが重要ですが、緊急性の高い事案については迅速に対応しなければならないと思いました。

次回、新たな視点を加えた分析をお示したいと考えております。現在、重要度と満足度の軸で優先度を示していますが、ここに全体の住みやすさとの相関関係を加えた分析を行うことで、より具体的な見え方ができるのではないかと思います。

本日は貴重なご意見をいただき、改めて感謝申し上げます。次回の会議にてフィードバックをさせていただきます。以上です。

会長

ありがとうございました。本日受けたご意見については、次回ということですが、計画の中に取り入れることが少しでもできればと思っておりますので、よろしく願いいたします。以上、皆さん、ありがとうございました。続きまして、その他について説明をお願いいたします。

6. 協議事項 (4)その他

事務局

それでは、本日お配りした資料の策定スケジュールをご覧ください。

これまでの策定スケジュールは、当初の計画に従い、今年の9月議会に上程することを目指して進めてまいりました。この間、各種会議やアンケート調査を実施し、さらに審議会やコアメンバー会議、市の若手職員によるプロジェクトチームのワーキング会議も開催してきました。しかし、9月議会への上程を目指すスケジュールでは、計画の素案作成および最終案の取りまとめに十分な期間が確保できない可能性があるとの内部の議論がありました。そこで、スケジュールの見直しを提案いたします。本日は5月27日、第3回審議会にあたります。今後、素案の作成に移行するにあたり、本日いただいたご意見を反映させるため、再度コアメンバーのワーキング会議や若手職員のワーキング会議を開催したいと考えています。これにより、内容の精査を行い、概ね7月頃に素案を作成する予定です。素案が完成次第、第4回審議会に提出し、ご意見を頂戴したいと考えております。その後、9月にパブリックコメントを実施する予定であり、期間はおおむね1か月を見込んでいます。パブリックコメントで寄せられた意見を踏まえ、最終的な調整を行い、計画案として取りまとめます。最終的には、第5回審議会を10月あるいは11月に開催し、市長への答申を行う予定です。市議会への上程は12月議会を目標とし、スケジュールを変更させていただきたいと考えております。

以上、何卒よろしくお願いいたします。

会長

今後のスケジュールでございますけれども、ただ、説明があった通りでございますが、この件につきまして何かご質問、ご意見等ございますでしょうか。

ずれ込むということですね。パブリックコメントはどういった形になりますでしょうか。

事務局

パブリックコメントは、基本的には各庁舎の窓口にて備え付ける形をして、お知らせについては各回覧であるとか、閲覧であれば、ホームページが見られる方に関してはインターネット上から見ることも可能です。

委員A

事務局に質問です。この審議会で審議するのは、総合計画の前半の部分だけでしょうか。それとも、各課の KPI や具体的な施策も含めて審議するのでしょうか。前回の時にはほとんど時間がなくて 全くできなかったけれど、余裕を持ったら KPI 等まで審議の対象になるのかどうかをお尋ねします。

事務局

前回は時間がなかったということも聞いております。素案づくりの際に各課から施策的などは出してもらいます。ただ、そこを含めて審議会の中で議論をしていただけたらと考えております。

事務局

本日は多くのご意見いただきまして本当にありがとうございます。今日いただいたご意見につきましては、改めて事務局で整理させていただきまして、次の審議会にて再度お示しさせていただきますと思います。それでは本日の第3回審議会につきましては以上で終了させていただきますと思います。本日は誠にありがとうございました。